

# 急変時の介護医学

急変を見抜くのは、利用者の生活を創っている介護職の力量にかかっています。  
 また、病状の安定のほとんどは、医師・看護師以上に介護職が握っています。  
 さらに、ケアの質を上げると診断が早まります。本セミナーでは、  
 病状管理の方程式をマスターし、急変時の見抜き方と考え方を学びます。

**東京**

**横浜**

2017年  
**日時：10月8日(日) 10:30~16:00**

2017年  
**日時：10月9日(月・祝) 10:30~16:00**

**会場：林野会館 (603会議室)**

**会場：ウィリング横浜 (研修室122)**

(東京都文京区大塚 3-28-7)

☆地下鉄丸ノ内線「茗荷谷駅」より徒歩 10分

(神奈川県横浜市港南区上大岡西 1-6-1  
 ゆめおおおかオフィスタワー内)

☆京浜急行「上大岡駅」より徒歩 3分

◆◆◆ **講師：清藤大輔** ◆◆◆



医師/介護老人保健施設・志木瑞穂の里施設長。

1994年、熊本大学医学部卒。仙台市での在宅ホスピス勤務医を経て、2003年より11年間、老健施設の施設医を務める。2014年より志木瑞穂の里副施設長、2015年より同施設、施設長に就任。

へ  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム

- 10:30 ◎ **急変時とは**  
 ▼ 異常の早期発見と早期対応/慢性疾患の急性増悪/急変のリスク因子/事故防止の3つのレベル/急変時の介護ならではの役割/急変時の医師・看護師への報告の仕方
- 11:30
- 11:45 ◎ **急変時のサインと緊急性の高い症状**  
 ▼ 急な体調変化/急なADL低下/突然の激しい痛み/2回以上続く嘔吐/3食以上食べない/便の色の異常/バイタルサインのパニック値/時間単位での症状の変化/意識レベルの低下/体の一部の異常な動き/薬が原因の新規症状/けがと骨折
- 12:45 (昼食)
- 13:45 ◎ **急変時の症状別対応**  
 ▼ 高熱(38度以上)/誤嚥・窒息/呼吸困難/意識障害とせん妄/けいれん/てんかん/意識消失/激しい頭痛・胸痛・腹痛/吐血・下血/骨折/火傷/鼻血/低血糖発作
- 14:45
- 15:00 ◎ **2つ以上の症状の危険な組み合わせ**  
 ▼ ①意識レベルの低下+呼吸器症状、むくみ・息切れ、体の動きの異常、冷や汗、血圧低下  
 ②頭痛+嘔吐、38度以上の発熱+脈90以上、入浴後+めまい、多量の排便+意識障害
- 16:00

\*受講票はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡さし上げます。【参加費：6,000円】

\*受講料は当日会場で承ります。

**主催** **なるほどケア塾** お問い合わせ  
 〒189-0011 ☎042-306-3771  
 東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 ㈱円窓社内

**お申し込みはこちらへ Fax**

**Fax：042-306-3772**

<参加人数>

<参加者名> *施設の場合は施設名もご記入ください。	10/8(日) 東京 ( )名	10/9(月・祝) 横浜 ( )名
<住所>〒 (自宅・職場)		
<TEL>	<FAX>	